

50周年記念「こどもの国 全校遠足」

副校長 松 瀬 歩

先日、延期していた「こどもの国全校遠足」が実施されました。この日は、天候にも恵まれ、また、月曜日だったためかこどもの国もすいており、子どもたちにとって満足のいく活動ができたようです。この全校遠足は、創立10周年のときから、これまで一度も絶えることなく脈々と続けられ、今年41回目を迎えたこととなります。わたしが美小の全校遠足に引率するのは、そのうちの2回しかありませんが、その2回の全校遠足で感じたことを書きたいと思います。

昨年、初めて引率したときにいちばん驚いたことは、6年生のきめ細やかなリーダーシップです。普段、教室であまり目立たないような子どもも下級生に積極的に指示を出したり、下級生に寄り添ったりしていました。また、下級生も6年生の話をよく聞き、信頼している様子がうかがえました。

なぜ、一緒に過ごすことの少ない縦割り班の中で、そのような信頼関係ができていいのか、子どもたちの様子、特に6年生の動きを見てすぐに理解できました。事前の打ち合わせでは、高学年が低学年に寄り添い、一人ひとり丁寧にいろいろなことを教え、6年生は休み時間等、よく1年生の教室に顔を出していました。そして、遠足当日、6年生は電車に乗る前に「リュックは前に抱えてね。」という言葉をかけ、電車の中ではじっとして話し声があると近くで「しいっ。」と注意をする、忘れ物があれば率先して持ち主をさがし、常に先頭に立って下級生をリードしていました。そして、解散式の感想では「1、2年生が楽しんでくれてよかったです。3、4年生も喜んでくれてうれしかったです。」と話し、下級生から拍手をもらっていました。自分の楽しみより下級生に楽しんでもらえることを優先させ、我慢することが多かったにもかかわらず、下級生に楽しんでもらったことに喜びを感じることができる美小の6年生はほんとうにすばらしいと思いました。そんな6年生の背中を1年生のときから毎年見せられれば、6年生に対する信頼が厚くなるのは当然の結果と言えるでしょう。

さらに、下級生は、自分と6年生を重ね「自分も大きくなったら、6年生のようなお兄さん、お姉さんになりたい。」という憧れをもちます。その憧れは決して実現不可能なものではなく、教師や友達の支援やご家庭からの励ましがあれば誰もが実現できるものです。そして、たくさんの人に支えられ自分の憧れを実現できた6年生は「もっとよい美小にしてほしい。」という自分の思いを在校生に託し美小を卒業していきます。卒業生の思いを託された在校生は自分の憧れていた6年生に近づこうと努力し実現させていく、そうしたよいスパイラルが何十年も続けられ、今の美小の姿をつくっているのだと感じています。

11月22日は美しが丘小学校50回目の創立記念日です。節目の創立記念日を迎えるにあたって、よい校風が続くよう教職員一同、一層努力していきたいと思います。これからもご支援・ご協力をお願いいたします。